



飽きずに楽しめる、お子さまにも保護者の方にも魅力的な施設用遊び場づくりをお手伝いします。

コンビウィズが提案する 遊び場環境のコンセプト

“プレイオアシス”

それは「親子が一緒にくつろげる空間」

保護者に「あそここの遊び場なら大人も落ち着ける」と思わせる環境づくりが大切です。こどもを遊ばせなきゃ...と思って利用されるのではなく、保護者の方にもくつろいでらうのです。乳幼児は敏感です。保護者がリフレッシュできれば、こどもの笑顔も輝いてきます。

遊具の安全に対する基本的な考え方 リスクとハザード

こどもは遊びを通して小さな怪我を繰り返し、大きな怪我に至らないための危険回避能力を身に付けていきます。遊具の安全に配慮するには、リスクとハザードの概念をもとに、製作者、施設側、利用者が適切に対応していく必要があります。

リスク

リスクは遊びの楽しみの要素で、冒険や挑戦の対象となります。こどもの発達にとって必要な危険性は「遊びの価値」のひとつです。

リスクとハザードの境界
こどもの発達段階によってどちらになるか違ってきます。

ハザード

遊びが持っている冒険や挑戦とは関係のないところで事故を発生させる恐れのある危険性です。こどもが危険を解らずに行うことは、「リスクの挑戦」とはならず「ハザード」となります。

ハザードには“物的要因”と“人的要因”の二つがあります。

1. 物的ハザード	①不適切な配置 ②遊具および設置面の設計や製造の不備 ③遊具の不適切な施工 ④不十分な維持管理の状態
2. 人的ハザード	①不適切な行動 ②遊具の不適切な利用 ③年齢、能力に適合しない遊具で遊ぶ ④不適切な服装

※国土交通省「都市公園遊具における安全確保に関する指針」、ヨーロッパEN規格、ドイツDIN規格、アメリカCPSCガイドラインより抜粋

ポイント

3才未満のお子さまは保護者の同伴を原則としています。遊び場の目立つところに注意喚起を促す表示を掲示することをおすすめします。

注意表示板例



空間にあわせて
様々なレイアウトができる
Combi ジョイントベンチ

JB01N-03N

●Combi ジョイントベンチ レイアウト例

展開例
 $2.5m + \alpha \times 3.0m$
[$7.5m^2 + \alpha$]

限られたスペースを最大限に利用可能
●コーナーでのレイアウト

展開例
 $3.2m \times 2.4m$
[$7.68m^2$]

オープンスペースにご提案
●スクエア状に囲んだレイアウト

展開例
 $2.4m + \alpha \times 3.7m + \alpha$
[$8.88m^2 + \alpha$]

年齢別などにご提案
●ゾーン分けレイアウト